

気道異物



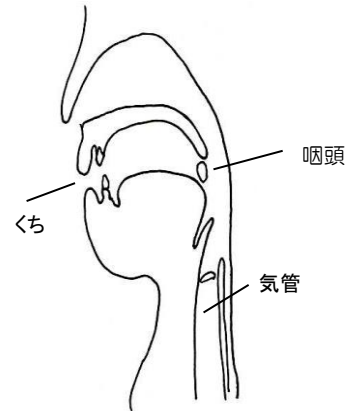
図1



図2



図3



原因と症状

- ・異物が気管や肺に入ったものを気道異物といいます。
- ・気道異物は窒息の危険が高く、死亡例も多い疾患です。
- ・年齢層は、乳幼児や嚥下機能の低下した高齢者に多いです。
- ・症状は、突然の咳き込み、かすれ声、ゼーゼーした呼吸、息苦しそうにしている、顔が青白いなど、自分の喉を親指と人差指でつかむ「窒息サイン」（チョーキング・サイン、図1）があります。
- ・異物の種類は、高齢者では餅や義歯ならびにPTP（Press-through package、錠剤やカプセルの包装）、子どもではピーナツや枝豆などが多いです。

診断と治療

- ・レントゲンやCTで異物を確認し、異物が疑われれば外来処置のレベルを超えており、大学病院や市民病院などの大きな病院での治療が必要となります。

家庭で注意すること

- ・2歳以下では、異物が原因で死亡することがあります。
2歳以下の子どもには、ピーナツは食べさせないようにしましょう。
- ・呼びかけに応じることができる「窒息サイン(図1)」の患者さんに対し、喀出させる緊急処置法としてハイムリック法(腹部突き上げ法、図2)があります。救助者が患者の背部から両手を患者のへその直上の腹部に回し、拳(こぶし)を作って組み、素早く内上方に突き上げます。
- ・乳児に対しては、子どもを救助者の腕にのせ、背部叩打法(図3)を行います。
頭を下げて、背中を叩き、異物を吐かせます。
- ・意識のない際には、救急依頼(119番)し、直ちに心肺蘇生法を開始します。
心肺蘇生法をおこなう際、気道確保・人工呼吸をおこなう度に咽頭内の異物を探し、もしあれば取り除きます。

急患診療センターを受診するめやす

- ・急患診療センターでは対応が不可能なので、新潟市民病院か大学病院を受診する必要があります。大至急、救急車を呼んでください。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）

<http://www.niigata-er.org>